

# 北海之光

5月号 北海道教区報

安らかに信頼している

ことにこそ力がある

イザヤ書 30章 15節

発行所 北海の光社

001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

## 日暮れて 闇深まり

旭川聖マルコ教会牧師  
稚内聖公会・留萌キリスト教会  
深川聖三一教会管理牧師

司祭 ミカエル 広谷 和文

イエスが亡くなられてから三日目の夕方、イエスの弟子が二人、エルサレムから西へ約一三キロのところにあるエマオという村へ向かって、とぼとぼと歩いていました。一人は、クレオパ、もう一人の弟子の名前はわかりません。彼らは、今朝イエスの墓が空になっていたら、マグダラのマリアたちが言っていたのを聞いています。しかし、それが何を意味しているのかはわかりませんでした。

全ての望みを失って、先の見えない不安の中をおそらく故郷のエマオへ帰ってゆく日暮れは、何とわびしく、心細い日暮れであったことでしょうか。ところが、エマオへ向かう二人の弟子にいつの間にか、もう一人の旅人が加わりました。二人は、この人に自

分たちがエルサレムで体験したこと、自分たちの先生であり、救い主であると期待していたナザレのイエスの最期のことを話してきかせたのです。

二人が語り終わると、今度はこの人が話し始めました。その話を聞いていくうち、二人の弟子のわびしかなかった心が、少しずつ明るくなってきたのです。やがてエマオの村が近づいてきました。二人の弟子は、この人に一緒に泊まってくれるように頼みます。三人が宿屋に入り食卓に着くと、この人が用意されたパンを祝福して裂き、二人に分けてくれたのです。二人の弟子は、その姿を見て、はっとしました。それは、イエスが自分たちと一緒に生活している間、毎日繰り返された姿

であったからです。彼らが、この人こそ墓から復活されたイエスなのだ、そのイエスが自分たちと一緒にエマオまで歩いて下さったのだと気付いたとき、イエスの姿は見えなくなりました。しかし、彼らは喜びに溢れ、このことを他の弟子たちに伝えるために、夜の道も恐れないうで、エルサレムへと引き返していきました。

イエスは、二人の弟子が生きる希望を失っているとき、彼らに近づかれ、彼らと共に歩んでくださったのです。イエスが共に歩んでくださることによって、「二人の目が開け」、「心が燃え」ました。失ってしまった希望、生きる喜びがいきいきとよみがえってきたのです。

これまで多くの人々がこのエマオ途上の物語によって、慰められ、励まされてきました。レンブラントの『エマオのキリスト』は、妻を失ったレンブラントが失意の中で、また借金地獄のどん底の中で描いた絵であると言われています。レンブラントは、この

聖書の物語を描くことによって、その窮地にもかかわらず生き抜くことができました。もう一人ヘンリー・ライトというイギリスの牧師のことを挙げる事ができるでしょう。病弱のライトは、二人の弟子がエマオへ帰っていく夕暮れと、自分が今見つめている人生のたそがれを重ね合わせて、美しい聖歌(聖歌三一番)を作りました。

日暮れて 闇深まり 慰めも失せ去りて  
よるべなき身の頼る 主よ  
ともにやどりませ

私たちも人生のたそがれ、人生の終わりを迎えます。エマオ途上の物語は、そのような時がいつ来ようとも、復活の主イエスが永遠に私たちと共におられるという福音のメッセージに他なりません。悪夢のようなウイルスの脅威におびえ、まさに「闇深まり」ゆく時代にあつて、この福音を命の支え、魂の拠り所として生き抜こうではありませんか。



「心の窓をひらいて」

# 福音と私(二三七)

今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか

苦小牧聖ルカ教会信徒

ミカエル 山本 賢



「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそキリスト・イエスにおいて、神があなた方に望んでおられることです。」

テサロニケの信徒への手紙I  
五章一六節から一八節

主の御名を賛美いたしません。

私の育った環境はクリスマスチャンホームではなく、家には仏壇と神棚があり、正月には初詣、お彼岸お盆にはお墓参り、一二月にはクリスマスプレゼントと、ごく一般的な日本の家庭でした。

私が教会へ行くきっかけになった出来事があります。

ある日、職場の書庫整理をしていました。

かなりくたびれていた伝記

シリーズの中に「キリスト」と書かれたのがありました。

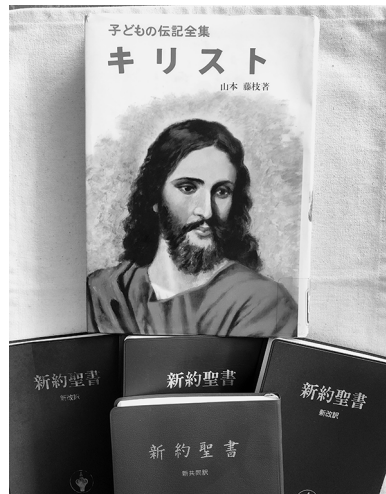
その時は「ん？キリストって神様でしょ？なんで神様ののに伝記本なんだろう？」と何となく気になったのと懐かしさもあり、廃棄予定でしたが手元に残しておくことにしました。

その数日後、別の書庫を片付けている時に同僚が四冊の聖書を見つけ「なんでこんなところに聖書あるの？うーん、要らない」と言つてゴミ袋の中に捨ててしまいました。

私は「あっ、聖書・・・」と思いました。気がなりつつも、そのまま作業を進めてしまいました。

その日は、帰宅後も何となく気分が落ち着かず、なかなか眠ることができませんでした。

この出来事は、「ゴミの中に御身を投じてまで、私に気づかせようとして下さったのでは？」と思うと、それはと



た。

気持ちが悪く落ち着かないまま、次の日はいつもより早く出勤し、職場のゴミ置き場に直行しました。

やっこのこと探し出した汚れたゴミの中から、綺麗な状態の聖書を見つけた時は、すぐに手に取り、どうして昨日自分が引き取ると言えなかったのかと思ひ、自然と「ごめんください」という言葉を口にしていました。

私たちの罪のため、私たちをお救いくださるために十字架にかかって下さったイエス様。

この出来事は、「ゴミの中に御身を投じてまで、私に気づかせようとして下さったのでは？」と思うと、それはと

ても恐れ多く、私にとって一生忘れることのできないこととなりました。

それからは急にキリスト教のことが気になり、インターネットで調べているうちに今度は教会での礼拝が気になり始めました。

前述のとおりキリスト教ではない家庭に育ち、先祖のお墓も三つ程関わっている私は、色々と悩むこともありま

した。しかしそれ以上に教会への気持ちが強くなり、二〇一五年一〇月三〇日に牧師面談をお願いし、私のいろいろな疑問や不安を解消していただきました。

事前に他教派の教会についても調べてみましたが、「聖公会はカトリックとプロテスタントの両面を持ち合わせており、伝統を重んじつつ変化

という吉野先生の説明が私にとって受け入れやすかったの

と、実家の斜向かいにお住まいの、故ヨセフ町田執事と町田姉が聖ルカ教会の信徒であることも、私が教会に集うきっかけとなりました。

今までの人生で、様々な辛い苦しい場面の時がありました。

振り返ってみると、その後には必ず良い道が備えられており、全てが益となっていました。

ずっと主が側で守って下さっていたんだと思うと、本当に感謝しかありません。

二〇一六年二月二五日に洗礼を受け、信仰生活が始まったばかりですが、受洗の時の気持ちを忘れず主の道をまっすぐ進んでいきたいと思



### 常置委員会報告

(臨時)

第六回 四月一日

#### 《協議事項》

一、新型コロナウイルスへの対策について協議した。

### 常置委員会報告

第七回 四月一三日

#### 《協議事項》

一、ランベス会議献金の件  
・ランベス会議は一年延期となったが献金は七月末の締め切りまで継続する事とした。



## 主教室より

新型コロナウイルス感染拡大で、教会では、主日礼拝の聖餐式に皆が集まるということができません。これまで、聖餐に与かるという極めて当たり前であったことが、実はいかに大きな恵みであり祝福であったかを多くの方が思いめぐらしていることと思います。

私が札幌キリスト教会の牧師を兼ねていた時に経験したことを二つお話しします。ある高齢者の信徒を訪ねた時、その方は認知症でもう私のことも教会のこともお分かりにならないようでした。機嫌が悪く、早く帰れと言わんばかりの様子に、携えていった聖餐

のパン(ウエハース)を出して、「今日、これを持ってきました」と言つと、途端にその方は椅子から床にひざまずき、頭を垂れて、両手を差し出しました。「主イエス・キリストのからだ」、「アーメン」の声が響きました。

もう一人は、やはり認知症でグループホームに入っておられ、教会には長くいらしていませんでした。私の訪問をとて喜んでくださり、話がはずみました。最後、二人で聖餐式をしました。しかし、その方は聖餐式そのものをよく覚えておられず、祈りの最中にも、いろいろ話しかけてきました。いよいよ聖別したパンを出したとき、「ああ、これこれ! これをいただか

ないと、ダメになってしまふんですよ」と。二人で笑いながらも、私は感動していました。

今年一月末に大阪聖三一教会の主日礼拝に行つた際、一人の高齢の女性が、陪餐時、前に出てくる時から泣いていて、陪餐の「アーメン」も涙声でした。体調を崩して二か月ほど教会に来られなくて、その日が久しぶりの聖体拝領だったので、嬉しくて嬉しくて、有難くて有難くて・・・と。

新型コロナウイルス感染も収束する時がきます。皆で教会に集まり、共に礼拝を捧げ、主イエス・キリストの御体と御血に与かるその喜びの日を待ち望みましょつ。

主教 ナタナエル 植松 誠

植松主教の首座主教としての任期も延長となったことを確認した。

四、阿部恵子執事司祭按手式  
・五月一六日(土) 主教座聖堂での実施を公示することとした。

※後日、同按手式は新型コロナウイルス感染症の広がりを受け延期とした。新たな日程については未定。

五、教区事務所業務時間短縮の件

・職員の感染予防のため業務時間を短縮することを承認した。

六、教区会館での作業・会議の持ち方の件

・新型コロナウイルス対策として、会議は最小限に留めるよう要請するとともに、ウェブ会議を奨励することとした。また、そのための設備環境を整備する事とした。

### 堅信式受領

おめでとう

今金インマヌエル教会

トマス 天沼 瑠平

(四月五日)

## 十 教区逝去教役者 記念聖餐式

六月一日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 渡邊 英治

一九八三年六月一四日

伝道師 元 城 佐吉郎

一九二四年六月二八日

執事 本田 憲之

一九一八年六月三〇日

### 司祭按手に関する公示

主教 ナタナエル 植松 誠

2020年4月11日

神のお許しがあれば、執事エリザベツ阿部恵子を、5月16日、公会の司祭に按手します。

2020年4月21日

上記の司祭按手式を延期します。

新しい日時は、あらためてお知らせします。

皆様の代祷をお願いいたします。



### ▽旭川聖マルコ教会

三月末までと思っていた「家庭での主日礼拝」が、四月になっても続きました。

五日は短い礼拝の後、教会委員会。イースターや今後の礼拝について話し合いました。一二日イースターは、密集を避けるため、朝と夕に分けて、祝会は来年のお楽しみ。親しく会話を交わすことも限定的なので、メッセージカードに一言ずつ書き、壁に張り出し、また週報を通して届けられました。二五日はコルムキル広谷文明さん、さやさんの聖婚式。感染予防のため最低限の人と時間とでしたが、あたたかい式でした。

早く共に祈る日常がもどり

ますように。

### ▽岩見沢聖十字架教会

昨年までとは違う「令和二年」。コロナ感染で引き続き教会での礼拝は自粛。そして園は、入園式の縮小と再び休園。園舎から賑わいが消える。そのような中、嬉しい知らせが届く。山本達郎兄、春の叙勲『旭日双光章』受賞。長い間、市内学校歯科医として生徒の歯を見守る。聖十字幼稚園の園医も務める。奥様の悦子姉との二人三脚の歩みが今回の受賞に繋がる。

一二日、復活日礼拝。司式は大友正幸司祭。約一年振りの奉仕。会衆は吉野公恵姉、井上姉、畠山兄。喜びに感謝。

### ▽小樽聖公会

四月五日の「しゅろの日曜日」はみ言葉の礼拝を信徒の司式によってお捧げし、司祭によって祝別された「しゅろの十字架」をいただきました。復活日は永谷司祭司式のもと、ここ数主日より少し多い人数で聖餐式が行われました。いつものような祝会はあ

りませんでした。がイースターのお恵みをたくさんいただき、帰りにはイースターエッグを持ち帰りました。信徒の皆さんにはイースターを迎えるの近況報告や挨拶の寄稿が呼びかけられ、集められました。イラストやシールが貼られた手書きのメッセージがA3一枚にプリントされて届けられています。

### ▽帯広聖公会

北海道でも新型コロナウイルス感染者が増え続けるなか、様々な祈りの中で過ごされていらつしやる方々に主の平安が豊かにありますように。

九日には四月としては、八年ぶりの一〇センチ以上の降雪があり、一面の冬景色となりました。

阿部恵子執事の司祭按手式は、新型コロナウイルスの影響で延期となりましたが、教会一同、按手式を楽しみにしながら、お祈りしています。

一二日のイースター礼拝はみ言葉の礼拝で一八名が参加

し、主の復活を賛美し喜びを分かち合いました。

### ▽稚内聖公会

四月十九日、イースター礼拝。会衆が三名、稚内市には感染者がいらないことから、礼拝も短縮せず、ささやかながらお祝い会も行った。礼拝後、田上さん宅にイースターエッグを届ける。お元気の様子。入間市の「イエスの小さい姉妹会」本部より、稚内に定住した最初のシスター、マリ・ノエルさんが、新型コロナウイルスに感染し逝去されたとの悲しい知らせをいただく。遺作の聖母子像を見ながら魂の平安をお祈りする。宗谷の田畑では、白鳥が群れて、北の故郷へ帰る日を待っている。

### ▽苫小牧聖ルカ教会

教会では感染症対策をしながら礼拝が続いています。聖ルカ幼稚園は小貴多喜子新園長を迎え、七日に入園式を行いました。保護者の参加を二名までに制限し、在園児の参加もなく、時間を短縮して行いました。

一二日のイースターは一五名の参加。いつもは子どもも含めて五〇名ほどの参加がありますが、祝会もなく少し寂しい復活日となりました。

一七日に出た緊急事態宣言の拡大を受け、幼稚園は一号園児が休園となりました。コロナウイルスの流行が早く収束しますようお願いしています。

### ▽函館聖ヨハネ教会

先月に続きコロナウイルス対策のため教会は静かです。一日には有志が集まり、掃除をしたり、イースターエッグを作ったり、お花活けをしたり、それぞれのご奉仕をしました。一二日のイースターには二九名の礼拝出席者が集まり、久しぶりの笑顔にほっとした方も多かったと思います。集会はなかったのですが、玄関ホールでなかなか立ち去りがたく、「三密」が心配になりました。

司祭から霊的陪餐、お説教のプリントが配布され、自宅礼拝の助けとなっています。

▽平取聖公会

北海の光の四月号に昨年一二月に天に召された中村一枝さんの追悼とお働きの一端を教区歴史文書保管委員会の下田委員長が記してました。重ねて三月の北海道新聞『哀惜』欄で釧路支局の椎名記者が昨年一〇月に中村さんが釧路市で行った、永久保秀二郎聖公会伝道師についての講演会の様子を写真入りで紹介されてました。

中村さんは以前平取でも町内振内地区の小学校の始まりが、聖公会宣教師ミス・ブライアントが開いた私塾である事を、自身が英国CMS本部へ出かけて調べた事をもとに講演されてました。天での平安をお祈りいたします。

▽有珠聖公会

新型コロナウイルスの影響により、四月の聖餐式は、やむなく中止としました。

例年ですとゴールデンウィークに多くの来館者を迎えるバチラー夫妻記念室の見学も自分の間、休止としました。

いつものように礼拝ができない日を、心待ちにしています。詩集「若きウタリに」(バチラー八重子著)より

目に見えぬ

人の心の

集うところ

其処に神まし

キリストいます

▽留萌キリスト教会

四月に入り留萌市内でコロナ感染者が三名発生し、重症化要素を持つ人が九割を占める教会としては、信徒の自宅礼拝を推奨する判断に至りました。復活日には皆でカレー

ライスを食べる予定でした。二六日、エマオの途上で復活の主が二人の弟子にパンを裂いて渡したことにちなんで、我が家の食卓にパンと葡萄酒を並べました。弟子らは

ハツと気づいたが、私にとつてご復活はまだ霧の中。一方で「司祭一人の礼拝を思っ

て祈っていました」との信徒の言葉に大感激しています。

▽札幌キリスト教会

主を仰ぐ私たちは、どこに

いても一つです。四月三日、棕櫚の十字架を少ない人数で用意、聖週の諸礼拝も少人数で守られました。

復活日は、礼拝を五回に分散、久々に各年代の方々が集い主の復活をお祝いしました。例年のイースターエッグはなく、卵型のカードが、棕櫚の十字架と共に郵送されました。

五月号の月報「天路」に近況報告を載せることになりました。そのために、近況報告を知らせ合うための返信用ハガキが信徒に配られました。

一日も早いこのウイルスの収束を、安らかに信頼して待ちたいと思います。

▽札幌聖ミカエル教会

聖ミカエル幼稚園は在園児の出席がない簡素な入園式となりました。元氣な新入園児

ですが、残念ながら一週間ほどで長い休園措置になりました。再び笑顔で登園してくれる日を心待ちにしています。

イースターは三回に分けて礼拝を行い、それぞれ二八名

程の出席。愛餐会はないもののイエス様のご復活を教会で祝うことのできる幸いを共にしました。

二三日、マグダラのマリヤ石川三枝子さんが逝去。留萌の教会で長くご奉仕くださいました。魂の光明と平安をお祈りいたします。

▽新札幌聖ニコラス教会

花壇の花たちが咲き始めています。復活日は横山司祭を迎え一四名で聖餐式をお捧げし、しばしの歓談の時を得ました。

コロナウイルスの影響は、教会やあらゆる精神的な拠り所としての集まりへの試練として依然として私たちに苦難

の時を与えています。聖堂に立つこと、共に安否を問い、パンとぶどう酒を通してキリストに生かされている実感を

私たちは待ちわびています。しかし今は復活の主の導きを信じ、祈り待つ日々です。

▽新冠聖フランシス教会

コロナ感染症がいつ終息す

るか分からない状況の中、四月一二日「復活日」の聖餐式を一二名の出席者で行うことが出来ました。陪餐はインテイクション、平和の挨拶は握手なし、礼拝後の愛餐会も割愛ということになりましたが、「イースターエッグ」と一週間遅れの「棕櫚の十字架」は用意されました。

このあと、いつ共に礼拝をお献げすることが出来るか分かりませんが、互いに祈り合い辛抱を重ねて参りましょう。入院中の小泉たかしさん、近々退院予定—ご加禱感謝!

▽室蘭聖マタイ教会

新型コロナウイルスの問題で三月は二回連続で礼拝を自粛していましたが、吉野司祭の指導のもと礼拝を再開しました。四月五日は主教様が特別巡回し

て下さり聖餐の恵みにあずかり、一〇日の受苦日は信徒により礼拝後復活日の準備をしました。

復活日は吉野司祭が午後二時に来教され聖餐式の恵みにあずかりました。祝会は省略

されましたが、信徒は教会に集う事により心が充たされま

す。信徒が少ないので三密の心配はありませんが、今後也十分注意して礼拝を続けて行きます。もう少しの辛抱です。

▽深川聖三教会

四月四日、深川あけぼの保育園第四八回入園式は中止となる。主教様の教令により礼拝等集会自粛中。九日、保育園職員会議で主任から「深川あけぼの保育園授業マニユアル」の指導がある。一二日、復活日を祝う礼拝、この悲しい時代にキリストの復活をお祝いすることこそ有り難き。大天使ミカエルが槍で悪鬼をつき刺す絵が中世において描かれたのは、現在のような流行病と同じ時代であったのでしよう。教会も悪鬼を撃退する祈りと戦いを続けましょ

う。キリストの力こそ悪鬼を制圧します。

▽網走聖ペテロ教会

寒暖や降雪の不安定な日々でしたが、雪もほほ融け、駐車場の排水溝の整備も三回で

済みました。

皆が集つての礼拝は事実上の休止となっておりますが、受苦日は四名で守り、復活日は五名で短縮した形で祝会無しで行いました。聖歌は二曲のみにしましたが、賛美の中に主がおられるのを覚えまし

た。一六日に和田家の記念会がご自宅で行われました。和田弓姉より掃除機二台が献品され自動で動いています。佐藤家の上棟式が近々行われる予定です。主に感謝。

▽北見聖ヤコブ教会

雪もすっかり融け、やわらかな風が街路樹の蕾の間をすり抜けています。除雪機は、秋までメンテナンスに出しているのですが、今回は一度しか使用しませんでした。

▽今金インマヌエル教会

四月五日、植松主教、三千代姉を迎え、復活前主日と米、馬鈴薯、コーンなどの種の祝福礼拝を無事に守ることが出来ました。訪問は控えています。

▽今金インマヌエル教会

四月五日、植松主教、三千代姉を迎え、復活前主日と米、馬鈴薯、コーンなどの種の祝福礼拝を無事に守ることが出来ました。訪問は控えています。

ちよつとした届け物をする時にも互いに気をつかっているのがせつなく感じる北見です。

▽紋別聖マリヤ教会

どこの教会の皆さんも同様世界中の誰もが経験したことがない生活を送っています。見えない敵との闘いに向かうか?と不安や恐怖の中で過ごした大斎節でした。一二日、植松主教によるイースター礼拝。約ひと月半ぶりの聖餐式。久しぶりに会う信徒の顔にも笑顔が戻りました。幼稚園では、前田博美先生を新しく園長に迎え、九日無事に入園式を終え、いつもの子どもたちの声で癒されました。その後再び休園になっていますが、子どもたちの無事を願って過ごしています。

▽聖マーガレット教会

暖かい日が多くなり芽吹き始めた木々や花々はいつもの四月の風景であるが、新型コロナウイルスの影響で様々な事柄が停滞している今、改めて自然の雄大さを感じている。条件付きの中、一二日イースター礼拝。二一名の出席者でした。皆で礼拝する喜びを感じ、日常が一刻も早く戻ることを祈りました。チャンネルの上には沢山のイースターエッグが籠に積まれていて、作成していただいた婦人会の皆様に感謝です。

▽厚岸聖オーガスチン教会

新型コロナウイルスの感染拡大により教会も様々な制限を甘受しております。中世のペストは、欧州の人口を半分のないしは三分の一に激減させ飢饉も重なり、まさに人類滅亡の危機にたつたそうです。それでも人はイエス様を信じ教会は復活をとげました。でしたが復活日には二〇名の参列者を迎えました。特に、厚岸から佐田兄がお元気にいらしてくださいました。イースターエッグ、祝会は中止。代わりに市販のお菓子などを用意し持ち帰っていただきました。用意して下さった姉妹たちに感謝。

▽津田正子姉、在宅療養中

訪問リハビリが中止されている状況ですが、工夫して元気に過ごされています。安らかに、信頼していることにこそ力がある(祈)

り、とても残念でした。

畑では寒い中、今金男爵芋の播種が始まり、雪が降ったり、雨が降ってきたり、強風でビニール被覆材が剥がされたりと大忙しです。ビニールハウスの中では初も芽を出し田植えの準備中です。秋には祭壇前に収穫された農作物が沢山並ぶことを祈ります。

▽聖マーガレット教会

暖かい日が多くなり芽吹き始めた木々や花々はいつもの四月の風景であるが、新型コロナウイルスの影響で様々な事柄が停滞している今、改めて自然の雄大さを感じている。条件付きの中、一二日イースター礼拝。二一名の出席者でした。皆で礼拝する喜びを感じ、日常が一刻も早く戻ることを祈りました。チャンネルの上には沢山のイースターエッグが籠に積まれていて、作成していただいた婦人会の皆様

▽厚岸聖オーガスチン教会

新型コロナウイルスの感染拡大により教会も様々な制限を甘受しております。中世のペストは、欧州の人口を半分のないしは三分の一に激減させ飢饉も重なり、まさに人類滅亡の危機にたつたそうです。それでも人はイエス様を信じ教会は復活をとげました。でしたが復活日には二〇名の参列者を迎えました。特に、厚岸から佐田兄がお元気にいらしてくださいました。イースターエッグ、祝会は中止。代わりに市販のお菓子などを用意し持ち帰っていただきました。用意して下さった姉妹

▽津田正子姉、在宅療養中

訪問リハビリが中止されている状況ですが、工夫して元気に過ごされています。安らかに、信頼していることにこそ力がある(祈)

向に進めるよう神様導いてください。

▽厚岸聖オーガスチン教会

新型コロナウイルスの感染拡大により教会も様々な制限を甘受しております。中世のペストは、欧州の人口を半分のないしは三分の一に激減させ飢饉も重なり、まさに人類滅亡の危機にたつたそうです。それでも人はイエス様を信じ教会は復活をとげました。でしたが復活日には二〇名の参列者を迎えました。特に、厚岸から佐田兄がお元気にいらしてくださいました。イースターエッグ、祝会は中止。代わりに市販のお菓子などを用意し持ち帰っていただきました。用意して下さった姉妹

▽津田正子姉、在宅療養中

訪問リハビリが中止されている状況ですが、工夫して元気に過ごされています。安らかに、信頼していることにこそ力がある(祈)